

「城西経済雑誌」の発刊を祝して

副学長 新 藤 富 五 郎

私は I have done my duty. という言葉が好きであります。世上この duty を、単純に義務とのみ訳して居りますのはもとより誤りで、申さばこの語は、神の吾人に与える生涯の天職を指すものに外なりません。

この度『城西経済雑誌』創刊の首途に際して、特にこの言葉をあげましたのは、経済とは本来、国は平らかにし民を救う所謂経世済民の道であるということ、改めて学生諸君にはっきりと肝に銘じていただきたいからであります。

本学建学の精神もまたそこにあり、ただに学問のための学問におちいることなく、常に志を高く保ち、新しい社会の推進力となるべき人材の養成がその本旨であります。

その意味におきましても私は、この雑誌が将来大総合大学に発展を約束される本学の中核たる経済学部学生諸君の、精進と研鑽との里程標として、同時にまた、学に志す者同志のよき心の交流の場所として、諸先生のきびしくあたたかい御指導の下に、着実に成長してゆくことを、信じ、かつ祈らずには居られません。

朋有り遠方より来るまた楽しからずや。

なにとぞ諸君、『天役供^{えききょう}セザレバ天咎^{まじゅう}必ズ到ル』の覚悟をもつて、都塵を遠く秩父の山々に囲まれたわが学園の、新らしき校風を打ち樹てられむことを。

以 上